

令和7年4月1日

令和6年度共同研究講座活動実績報告書

共同研究講座名：集学的身体活動賦活法開発講座

所 属 長：三上 靖夫

1 共同研究講座の目的

少子高齢化が進む中、疾病構造が変化するとともに必要とされる医療の内容が移り変わってきた。そのため従来とは異なる視点で、疾病・病態・障害を捉えて対処法を編み出す必要に迫られている。重要な視点のひとつが「活動」である。

ヒトの営みの基本である活動に、何らかの原因で支障が出れば、ヒトは自立した文化的な生活を送ることができなくなる。活動のレベルには、日常での活動、家庭での活動、社会での活動などがある。これらの身体活動に関して、賦活法を集学的に開発研究することを目的とする。

2 報告年度に係る取組状況

疾患による障害をもつヒトや高齢者の「活動」に焦点をあて、多数の臨床研究に取り組んでいる。

脳血管障害による麻痺や痙縮に対する電気刺激療法，磁気刺激療法，薬物療法，英領療法などを中心にその効果に関する検証を行っている。

京丹後地域のコホート研究において，高齢者の活動がサルコペニア，疾患，その他の健康状態に及ぼす影響について研究をすすめている。

高齢の消化器がん患者に対する術前入院・集学的リハビリテーションの効果を調査し，治療プログラムを開発する研究を行っている。

3 報告年度における著書、論文、学会発表、講演、研究助成等の実績

1. 著書

- 河崎 敬, 三上靖夫: III周術期のリハビリテーション診療の実際 6術直後のリハビリテーション診療 D疼痛の管理. 消化器外科のリハビリテーション医学・医療テキスト (総編集) 久保俊一, 山上裕機. 130-133. 医学書院. 2024
- 垣田真里, 三上靖夫: III周術期のリハビリテーション診療の実際 6術直後のリハビリテーション診療 Eイレウス・排泄の管理. 消化器外科のリハビリテーション医学・医療テキスト (総編集) 久保俊一, 山上裕機. 134-138. 医学書院. 2024
- 沢田光思郎, 河崎 敬: III周術期のリハビリテーション診療の実際 6術直後のリハビリテーション診療 Fせん妄・認知症の管理. 消化器外科のリハビリテーション医学・医療テキスト (総編集) 久保俊一, 山上裕機. 139-142. 医学書院. 2024

2. 論文

- Maeda H, Hishikawa N, Sawada K, Sakurai M, Ohashi S, Mikami Y: Wearable integrated volitional control electrical stimulation device as treatment for paresis of the upper extremity in early subacute stroke patients: A randomized controlled non-inferiority trial. Arch Phys Med Rehabil 105(2), 227-234, 2024.
- Hishikawa N, Sawada K, Kubo M, Kakita M, Kawasaki T, Ohashi S, Mikami Y: Kinesiophysiological analysis associated with changes in subjective intensities in belt electrode-skeletal muscle electrical stimulation: a prospective exploratory study. J Phys Ther Sci 36, 284-289, 2024.
- Hishikawa N, Sawada K, Maeda H, Ikeda T, Ohashi S, Mikami Y: One-Leg Robotic-Assisted Gait Training Efficiently Improves Gait Independence for Acute Stroke Hemiplegic Patients: A Prospective Pilot Study. Am J Phys Med Rehabil 103, 444-447, 2024.
- 守田洋一郎, 菱川法和, 垣田真里, 河崎 敬, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 三上靖夫: ボツリヌス療法と電気・磁気刺激療法を併用した脳出血後の痙縮を伴う右上肢麻痺の症例. 日生体電気刺激研究会誌 37, 1-5, 2024.

3. 講演

- 沢田光思郎：次世代を担う若手医師と創るリハビリテーション診療—日常診療をまろごと教育の場に—．第61回日本リハビリテーション医学会学術集会．渋谷区．45459
- 三上靖夫：関節リウマチ患者の活動を支えるリハビリテーション診療．第14回 泉州リウマチ膠原病談話会．泉大津．2024
- 三上靖夫：関節リウマチ患者の活動を考える．第20回 茨城リウマチケア研究会．つくば．2024
- 三上靖夫：より良い学術団体・学術大会を目指して．第12回日本運動器理学療法学会学術大会．横浜．2024
- 三上靖夫：かかりつけ医は高齢者の腰痛にどう対応するか．在宅患者のためのリハビリテーション診療講座 京都府リハビリテーション教育センター第21回座学研修会．京都．2024
- 三上靖夫：その体幹装具は生活を妨げていませんか？．第40回日本義肢装具学会学術大会．福岡．2024

4. 学会発表

- 菱川法和，遠山将吾，島原範芳，三上靖夫：関節リウマチ患者の身体活動と骨格筋量の関連対する栄養状態の媒介効果．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．神戸．2024
- 遠山将吾，菱川法和，島原範芳：骨格筋電気刺激法によるリウマトイドサルコペニアの治療法開発（第1報）．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．神戸．2024
- 沢田光思郎，三戸岡奈津実，菱川法和，小寺勝也，藤井 俊，三上靖夫：ポリオ経験者に対する筋力増強訓練—針筋電図，表面筋電図を用いて精緻化を行った1例—．第50回日本生体電気・物理刺激研究会．弘前．2024
- 守田洋一郎，垣田真里，菱川法和，河崎 敬，大橋鈴世，三上靖夫：ボツリヌス療法と電気・磁気刺激療法を併用した脳出血後の痙縮を伴う右上肢麻痺の症例．第50回日本生体電気・物理刺激研究会．弘前．2024
- 前田博士，菱川法和，大橋鈴世，沢田光思郎，三上靖夫：回復期脳卒中片麻痺患

者に対する随意運動介助電気刺激装具の効果（最終報）－IVESとの比較－．第50回日本生体電気・物理刺激研究会．弘前．2024

- 新庄浩成，大橋鈴世，沢田光思郎，久保元則，菱川法和，三上靖夫：地域在住高齢者の24時間運動行動と抑うつ状態の関係―組成データ解析法と等時間置換モデルを用いた検討―．第61回日本リハビリテーション医学会学術集会．渋谷区．2024
- 守田洋一郎，垣田真里，菱川法和，河崎 敬，大橋鈴世，三上靖夫：消化器がん術前患者に対する運動療法が，筋力，体組成と免疫機能に与える影響．第61回日本リハビリテーション医学会学術集会．渋谷区．2024
- 櫻井桃子，菱川法和，梶 健太郎，沢田光思郎，前田博士，三上靖夫：回復期早期の脳血管障害患者における食形態の違いと低栄養およびサルコペニアの関連．第61回日本リハビリテーション医学会学術集会．渋谷区．2024
- 梶 健太郎，櫻井桃子，菱川法和，沢田光思郎，前田博士，三上靖夫：脳血管障害患者の食事摂取量が骨格筋にあたえる影響―回復期リハビリテーション病棟入院1か月での経過―．第61回日本リハビリテーション医学会学術集会．渋谷区．2024
- 近藤裕介，濱中紀成，木村匡男，沢田光思郎，三上靖夫：頸部健側回旋が有効であった延髄外側梗塞の既往のある摂食嚥下機能障害の症例．第55回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会．橿原．2024
- 新庄浩成，大橋鈴世，沢田光思郎，久保元則，菱川法和，三上靖夫：地域在住高齢者の24時間動作行動と炎症マーカーの関係―組成データ解析法と等時間置換モデルを用いた検討―．第8回日本リハビリテーション秋季学術集会．岡山．2024
- 法貴駿介，垣田真里，菱川法和，守田洋一郎，河崎 敬，大橋鈴世，三上靖夫：入院下で高強度・高頻度の術前運動療法を実施した消化器がんの1例．第8回日本リハビリテーション秋季学術集会．岡山．2024
- 中西雄紀，櫻井桃子，菱川法和，梶 健太郎，沢田光思郎，前田博士，三上靖夫：脳血管障害患者の食形態の違いと低栄養の関係を媒介する因子―回復期早期での検討―．第8回日本リハビリテーション秋季学術集会．岡山．2024
- 前田博士，梶 健太郎，中西雄紀，菱川法和，沢田光思郎：大腿骨頸部骨折の術後リハビリテーション治療にウェルウォークを用いた脳卒中片麻痺患者の1例．第

8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会．岡山．2024

- 礪島大志，菱川法和，加古山 悟，中西雄紀，梶 健太郎，沢田光思郎，前田博士：亜急性期脳血管障害患者の上肢使用頻度におよぼす因子—麻痺側上肢運動機能の部位別検討—．第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会．岡山．2024
- 露口優美，沢田光思郎，小松佳明，飯塚 悠，中西雄紀，櫻井桃子，三上靖夫：超急性期で立位訓練に姿勢変換機能付き車いすを使用した3例．第40回日本義肢装具学会学術大会．福岡．2024

5．研究助成

- 三上靖夫：高齢者の活動が健康寿命に与える影響 —京丹後長寿コホート研究から—．文部科学省科学研究費 基盤研究（C）
- 菱川法和：関節リウマチのサルコペニア治療法の確立；骨格筋増量法のパラダイムシフトを目指して．科学研究費助成事業 若手研究
- 菱川法和：高齢消化器がん患者に対する術前入院・集学的リハビリテーション治療プログラムの開発．公益財団法人大和証券財団

※欄内におさまらない場合は枠を広げて記入のこと。

※大学ホームページ等において公表することとなるので、秘密情報については記載しないこと。